

# 未来バンクとは

未来バンク事業組合理事長 田中 優

## 未来バンクとは

未来バンクは環境と市民事業に低利（3%）で融資する、市民の互助の仕組みです。組合員となって出資していただいた資金を、同じく組合員のために融資するものです。融資は目的に合致するものにしかできません。『環境、市民事業、福祉』目的の三つに限られています。環境グッズなどの購入や、市民事業・市民活動への融資などです。非営利に近い事業で、社会的有用性の高い事業にのみ融資しています。実際には、融資を受けるほとんどがNPO（非営利事業）です。返済の確実性と社会的な有用性は、複数理事の面接を含めて調査・判断します。決算書類、定款・規約、主たる契約書の写しなどを提出いただきます。これを財政的に分析すると共に、本人の誠実さなどから返済可能性を判断し、最終的には理事会で融資をするかどうかを決定しています。

資金的には組合員からの出資金を組合員に融資しているだけの閉じた仕組みで、他からの融資は受けていません。出資金の余剰分は、労働金庫に預金しています。

## 未来バンクの組織

未来バンクは出資金を集めているNGOとしての『未来バンク事業組合』と、融資を行うために貸金業法の登録を行っている『未来舎』から構成されています。両者とも、法的には民法上の組合契約です。出資を前提としますので、NPO（特定非営利活動法人）には該当しません。『未来舎』は未来バンクの融資部門であり、その出資金のほぼ全額が未来バンクからの出資です。実質的に子会社であり、連結決算を行っています。

二つに分けた理由ですが、理事メンバーは他に仕事を持っている関係から、非営利とはいえ貸金業登録団体に名を載せることに慎重となった結果です。そのため貸金業登録の非営利組合『未来舎』と、実質的な大出資者である非営利NGOの『未来バンク事業組合』とを分けました。

## 融資と出資額の状況

融資は未来舎を通して実施しています。未来舎は東京都知事に対する登録を行っているので営業店は東京都内にしか設置できません。しかし融資は全国的に行うことができます。これまでの融資は累計総額で4億5千万円、貸し倒れはなし、単年度の融資額は約1億円です。融資の内容としては、環境・市民事業を行う個人の事業に対する融資が少数、設立から昨年までの間に多かったのが太陽光設備設置助成までのつなぎ融資、現在最も主力となっているのがNGO、NPO（非政府組織、非営利組織＝市民団体）に対する事業融資です。

これまでのところ貸倒れはありませんが、返済の遅れのある融資が2件（融資額240万円）発生しています。それに対し、02.3.31現在の組合員の出資額総計は1億円、貸倒引当金を含む事業準備金は600万円を積んでいます。

## 未来バンク成立の経過

未来バンクはこれまでの貯蓄に対する疑問から生まれています。93年に地元江戸川の仲間と共に出した「どうして郵貯がいけないの／北斗出版」がきっかけになっています。この本の内容は国内・海外の環境破壊をめぐる資金が郵貯などを原資とする「財政投融资」にあり、このままにしていれば、過去と同様に戦争の資金とされるかも知れない、いくら環境破壊に反対しても資金が供給される以上、『もぐら叩き』に過ぎなくなる、と危惧したのです。金融機関も調べましたが、「悪いことに使われない」という消極面で良い金融機関はありましたが、「積極的に環境に役立つ」ところはありませんでした。そこで何とか積極的に環境に良い融資の仕組みを作ろうと考えました。金融機関にも相談してみましたが、乗って来るところもなく、自分たちでリスクを取って作ることにしました。

私たちが当初考えていたのは「エコバンク」でした。しかし実際に調べてみると、エコロジーだけで融資するには需要が少なかったのです。むしろ世界では「マイクロクレジット運動」というような、市民の小さな起業に融資する仕組みが生まれていることに目を向けました。私たちが希望しているのは市民が社会の主体になる『市民社会』です。市民が起こそうとする市民事業に融資をしていこうと考えました。ただ「環境」だけではなく、貯蓄のそもそもの目的である『未来のため』に使えるようにしようと考えたのです。こうして未来バンクは94年に誕生しました。

## 未来バンクの理事

未来バンクを作ったのは、「市民フォーラム2001」というNGOに集まった「金融と環境研究会」のメンバーでした。そこには金融関係者や民間企業、公務員などで働く多くの人たちがいました。その知恵を集めて設立しました。未来バンクの現在の理事は、その頃からのメンバーに加えて、新しいメンバーも参加しています。しかし常勤者はいません。すべての理事が別な仕事を持ち、未来バンクの仕事は実費を除いてすべて無給でやっています。実務はほとんどパソコンとインターネットで行っています。それによって少ない経費で効率的に、しかも非常に多い頻度で論議することができます。

## 未来バンクの事務

大まかに以下のような事務があります。

### 1. 受付・問合せ

NGOの共同事務所におカネを払って、電話などを受けてもらっています。受けているメンバーは理事の一人です。融資の相談など、なるべくメールしてもらっています。また組合員の申込やパンフの請求などに対応しています。融資はそこで即断せずに、その後に理事メンバーから連絡するようにしています。

### 2. 融資の面接

融資の相談は、理事メンバーの複数で直接面談することになっています。場所は特に定めず、都合の合う場所まで出向きます。そこで 目的に合うか、返済可能性はどうか、人柄は信頼できるか、などを見、融資までの手続きについて説明します。

その場で融資が実行できるかどうかはお答えしません。理事会での検討の上でなければ決定できないからです。飲食代から交通費まで、すべて自費で負担します。相手からは絶対にご馳走にならないよう気を配っています。

### 3. 理事会

ほとんどの部分はメール上で行います。融資のためにさらに調べるべきことから、徴収すべき書類までメール上で論議します。また、継続的に融資する相手には担当理事を決めて財政分析しています。

未来バンクでは年に4回ニュースを発行するので、その印刷・発送作業の日に集まって会議をしています。

### 4. 会計処理

会計の処理は、簡潔な仕組みで毎日処理しています。安全を考えてMOにバックアップしながら処理しています。

### 5. 組合員の出資金管理

新規の組合員加入に対しては、「組合員証」と「出資金確認書」を送っています。しかし組合員からの追加出資の場合は、年度終了時の確認書になります。組合の加入申請書と振込み額を確認し、年1回、ニュースレター希望者からは500円を出資金から徴収しています。

## 実務上の問題

実務上で必要となる困難な点は以下の三点です。

### 1. 法律知識

融資の実務を行うわけですから、万が一の事態を想定して法律的にどうなるかを検討しておかなければなりません。融資には連帯保証人をつけてもらいます。連帯保証人は本人に請求してからでなくても請求することができます。大変強い担保です。株式会社や有限会社はつぶれてしまえば債務の追求ができません。ですから必ず連帯保証人を代表者個人から取り、その上に別な連帯保証人をつけています。未来バンクではいまだ返済不能は起きていませんが、返済遅延は起きています。その時には理事から返済督促の連絡をしています。

### 2. 会計処理

これはすべてパソコン上で処理します。複式簿記で作成して出入りを管理し、決算時に集計して「損益計算書」「貸借対照表」を作ります。それを監事に監査してもらった上で総会に臨んでいます。これにはある程度の簿記知識が必要です。

### 3. 対象の財務分析

個人はともかく、法人などの場合、決算関係の書類を理解しなければなりません。そこから財務状況を見抜き、返済可能性を判断します。これにはある程度の財務能力が必要です。未来バンクには、税理士資格を持つ理事が参加しています。